

5月の政治・経済イベント

重要 01 米国の景気回復期待進むも、長期金利は上昇一服

4月に発表された米経済指標は、大型財政刺激策や順調な新型コロナウイルスのワクチン普及を背景に、軒並み堅調で、米国では景気回復期待が加速しています。一方で、FRB（米連邦準備制度理事会）高官が、「金融緩和の継続」を示唆したこともあり、年明けから続く米長期金利の上昇には一服感が見られます。今後は、ワクチン接種の進捗が経済活動再開をもたらす、景気回復につながるなどの期待が膨らむ中で、FRB高官の今後の発言には引き続き注意を払う必要がありそうです。

重要 02 ワクチン普及が進む欧州、遅れる日本

欧州では新型コロナウイルスの再流行が深刻化していましたが、円滑なワクチン接種の効果が現れ、とりわけ英国では感染状況が劇的に改善しています。対して、ワクチン普及が遅れる日本では、大都市圏での感染者が増加傾向にあり、4月23日に東京や大阪など4都府県を対象に3度目の緊急事態宣言が発出される事態となりました。経済の正常化が欧米よりも遅れる懸念が高まっており、欧米株市場などに比べて日本株に対する投資家センチメントが相対的に上がりづらい状況が続くそうです。

重要 03 新興国の政治・経済情勢

トルコでは政策金利が維持され、通貨の急落は鈍化したものの、金融市場の動揺が続いています。インドでは、新型コロナウイルスの感染が急拡大、中国では新疆ウイグル自治区や台湾問題を巡り、米欧との対立が激化しているなど問題山積です。また、米国のインフレ懸念や長期金利の上昇は、新興国市場からの資本流出につながるリスクがあるため、今後も警戒が必要です。

5月の主な政治・経済イベント

	国・地域	予定
3日(月)	米国 	ISM（サブライマネジメント協会）製造業景況感・支払価格指数（4月）
6日(木)	トルコ 	金融政策発表
7日(金)	米国 	雇用統計（4月）
14日(金)	米国 	小売売上高、鉱工業生産指数（4月）
17日(月)	中国 	鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資（4月）
18日(火)	日本 	1-3月期GDP（1次速報値）
19日(水)	米国 	4月27、28日開催FOMC（連邦公開市場委員会）議事録公表
28日(金)	ユーロ圏 	欧州委員会ユーロ圏景況感指数（5月）
28日(金)	米国 	個人所得、個人消費支出、個人消費支出デフレーター（4月）
31日(月)	日本 	鉱工業生産指数、小売売上高（4月）

上記は、すべて現地時間で作成しており、作成時点で利用可能な最新の情報を用いておりますが、発表日は変更される可能性があります。
(出所) Bloombergデータ等より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。